

南仏治安情報 (2013年2月)

■プロヴァンス地方

1. 空き巣発生件数の統計

内務省治安司法高等研究所の報告によると、昨年フランス南部で発生した空き巣の件数はエロー県(8250件 22,5件/日)、アルプ・マリタイム県(8828件 24,1件/日)、オート・ガロンヌ県(10820件 29,5件/日)、ブーシュ・デュ・ローヌ県(19803件 54,1件/日)となっており、当地方での発生件数は他地方の平均より2倍も多くなっています。また人口が当地方と比べ1,5倍近いパリでは発生件数が12049件で、人口100人当たりの発生率が0,51件であるのに対し、当地方では1件と約2倍の発生率になっています。

2. 窃盗罪等によりセルビア系家族を逮捕

フランス南部では約2年前からネックレス等を狙ったひったくりが急増していますが、警察の捜査によりヴィトロールとベール・レタンに住むセルビア系移動生活者の家族6人が窃盗及び盗品の売却等を組織的に行っていたとして逮捕されました。被疑者家族は毎朝TGVエクサン・プロヴァンス駅から娘を電車に乗車させ、マルセイユで窃盗を敢行させていました。また家宅捜査の際には、盗品と見られる貴金属の他、溶解の為の道具が見つかっており、盗んだ貴金属を溶かし金塊にした後海外で売りさばっていた模様です。

3. 若者による列車妨害事件

2月2日午後、乗客150人を乗せニースに向かっていたTGVがマルセイユ St-Charles駅を出発後同市11区のAir-Bel集合住宅地域に差しかかった辺りで緊急信号により停車した際、ビデオ撮影のため発煙筒を持った百人あまりの若者達に取り囲われました。この事件で若者の内9人が列車走行妨害の罪で取り押さえられました。

4. インフルエンザの流行

今期プロヴァンス地方では人口10万人に対し1376人のインフルエンザの発症が報告されており、流行のしきい値(10万人に対し166人)を大幅に上回っています。2月半ばには重症であった36名のうち5名が死亡しており、地方厚生局(ARS)は高熱、頭痛、筋肉痛等の症状がある場合はかかりつけの医師の診察を受けることを勧めています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. EDF社を偽った詐欺事件の発生

数ヶ月前よりアルプ・マリタイム県では、電子メールでEDF社（フランス電力公社）を偽り顧客に電気使用料金の未払いを通告し、キャッシュカードの番号等を返信するよう要求した後現金を詐取する詐欺事件が報告されています。実際に、1月にはブーシュ・デュ・ローヌ県に住む邦人も同様のメールを受け取りましたが、怪しいと感じたため被害には遭っていません。この電子メールには信ぴょう性を高めるためEDF社のロゴが添付されていますが、同社から代金引き落としがされなかった旨を伝える電子メールが直接個人に送付されることはありませんのでご注意ください。

2. ニース市における押し入り強盗の発生

2月中にニース市を中心に民家への押し入り強盗が5件発生しました。被害者は60歳代以上の夫婦や一人暮らしの女性等で、中には家族全員に殴る蹴る等の暴行を加えた上で金品を奪った凶悪な事件も報告されています。これらの犯人のほとんどが未だに検挙されていません。

3. ニース空港内での窃盗事件

数ヶ月に渡りニース空港第2ターミナルで、旅客のスーツケースを盗んでいた男が逮捕されました。この男は身体に障害があることを利用し、預け荷物受け取り用ターンテーブル近くの障害者用スペースに車を駐車し、盗んだ荷物を積み込んでいたとみられます。家宅捜査の際には141個ものスーツケースが押収されましたが、その内33個は手荷物合符から所有者が判明したものの、残る100個以上については依然確認が取れていません。

4. コルシカ島での暗殺事件

2月12日、コルシカ島アジャクシオで今年に入り初めてとなる暗殺事件が発生しました。被害に遭ったバーのマネージャーの男性は車を運転中、覆面をしバイクに乗った2人組の男により十数発の発砲を受け死亡しました。

■ミディ・ピレネー地方

1. 邦人女性に対するひったくり未遂事件

2月21日午前10時頃、モンペリエ市に住む友人に会うため同市を訪れていた日本人女性が市郊外Celleneuve地区を歩いていたところ、近付いて来た男に携帯電話を奪われそうになりました。女性が抵抗し叫び声を上げたので、男は何も取らず逃走しました。警察への通報により犯人は逮捕されました。

2. クルド系トルコ人の逮捕

トゥールーズ市のReynerie、Croix-Dauradeの両地区で2月12日、テロリストに認定されているクルディスタン労働者党员(PKK)と疑われるクルド系トルコ人の男2人が逮捕されました。同日にはボルドー市でも十数名が同容疑で逮捕されており、被疑者達はフランス南西部からポルトガルまでの広い範囲で、PKKの活動資金を得るため恐喝していたとされ、家宅捜査の際には多額の現金が押収されました。

3. マルチ商法の被害

友人や家族に携帯電話の格安プランを勧め契約を取ると共に40ユーロの収入が得られると言って、トゥールーズ市の学生を中心にマルチ商法を持ちかける業者が確認されています。契約から数日後には提出した銀行口座情報により数百ユーロが引き落とされ、利益を得るには相当数の契約を要する仕組みになっています。被害に遭った学生が参加した説明会では40名程が参加しており、被害の拡大が懸念されています。

4. ラングドック・ルシヨン地方は麻薬密輸ルートの通過地点

ラングドック・ルシヨン地方はモロッコやイベリア半島からの麻薬密輸の重要な通過地点になっており、昨年同地方における輸送車への検問等から大麻樹脂だけで1100kgが押収されたことから事態の深刻さが伺えます。また最近では分子構造を一部組み替え、法的規則を潜り抜けた疑似薬物がインターネット上に多く出回っています。これらには禁止薬物の数十倍以上も強力なものもあり、たった一度の使用でも取り返しのつかない脳障害の原因になり得るとして警鐘が鳴らされています。